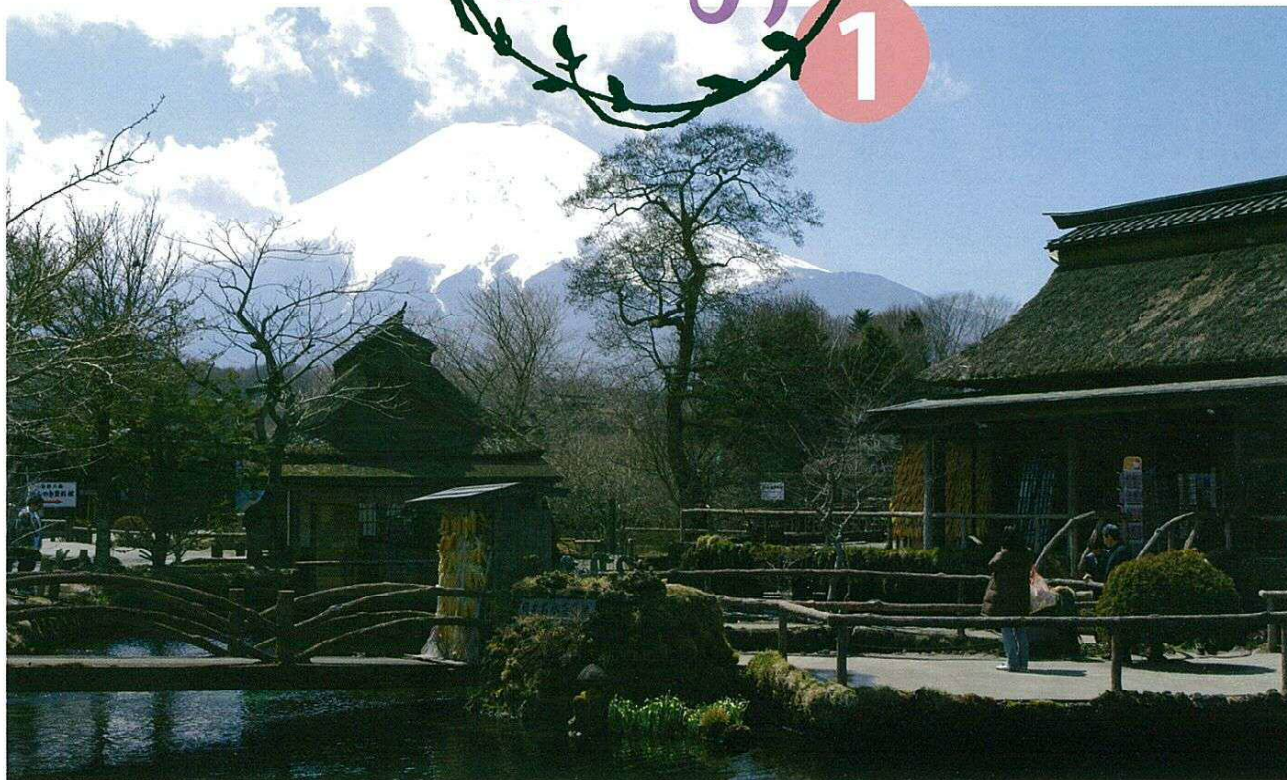


南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobiir.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



「呼びかけ応え合う」

年末年始の季節が好きである。なぜなら、普段遇えない人と遇えるからである。その人に遇えると楽しく話していた頃を思い出す。

年賀状のおかげで、遇えない人にも声がかけられるようになった。中には家族写真を載せて近況を伝えてくれるものもあり、どれを見ても楽しい。最近ではメールが年賀状の代わりになりつつあるが、いずれにしても「元気でるか」と私を案じてくれているようで嬉しく感じる。

年賀状などの手紙のやりとりは、製紙技術が伝わってきた七世紀にはすでにあり、親鸞聖人も門弟からの便りを受けて返事を書かれた。そして、共に仏道を歩む仲間を御同朋と呼ばれ、大切にされた。共に呼びかけ応え合う仲間がいたからこそ、親鸞聖人は本当にすぐわれることとは一体何かと、生涯をかけて問い続けられたのではないだろうか。

年賀状を頂いたら返事を書くのが当たり前だが、では、普段の私達は周りの人からの呼びかけに応えているのだろうか。私は何事も自分勝手に考えてしまうのだが、一人で考えるなど叱ってくれる人がある。「お叱り」も「よびかけ」である。共に呼びかけ応え合う姿が御同朋と言ひ表されたいと感じている。

群生海

「ビリヤードを通じて」

荒川区東日暮里

関 浩一 さん



今回は荒川区東日暮里でビリヤード場を経営されている関浩一さんにお話を伺います。

私の転機

以前ビリヤード場で店員として働いていた時に、店のオーナーと方針が合わず自ら店を辞め二十九歳で職を失いました。これから一体どうしたらいいのかと、不安に思いました。生活にも困るわけですから。

そこで、どうにかして自分の店を持つという事で、今の店を出す事になりました。今思えば、その出来事がなかったら店を出すことはなかったかもしれませんね。

経営者として

私にとって店の経営と人生とは切り離せない事だと思っています。収入面を考えなければならぬし、店で働いてくれている店員の人生も責任を持たなくてはならない。そもそも人が居なければ何も出来ないの、人を大事にしたいと思っています。

責任を持つという事には、人の成長に関わる教育も含まれると思います。お客さんがいなければ僕等は生活出来ないので、接客は大切な事として教えています。勿論、自分自身にも言える事ですけどね。

つながり

ビリヤードを通して様々な人と出遇いました。妻ともビリヤードで出遇いましたからね。考えてみれば、今付き合っている人達は、ビリヤードをやっていたからこそ出遇ってなかったと思います。

だから、今の自分がいるのはビリヤードのお蔭です。

今後について

これからは昼間に老人ホームの人達や、小学校や中学校等に店を貸し出したり、ビリヤード教室なども考えています。コミュニケーションも取れるし、身体も使うし、健全だと思います。ビリヤードが生涯スポーツとして普及していけばと思っています。

(聞き手 大橋 伊知郎)

「施主と喪主」

葬儀で一番悲しみが深いはずの方が一番忙しく動いている光景をよく見ます。「四十九日の納骨が終わるまで悲しむ間も無かった」と言われる方も少なくはありません。

最近、施主と喪主が同義語になっているようです。「喪」は死を穢れとし、祝い事を避ける期間を指すようですが、それは死が受け取れない私達の迷いです。そうではなく喪主は「喪つ」と読むように、特に深い悲しみに暮れる立場の方です。それに対し、施主は字の如く「施す」と読み、悲しみに暮れる喪主に成り代わって、費用の負担や葬儀の運営など実務をされる方を指します。本来はそのような違いがあります。

しかし、どちらもその悲しみを通して、生死の問題に向き合っているという故人から願われています。

(山崎 哲記)

法蔵菩薩に建立された国は、すべ

ての人を受け入れ、どのような状況であろうとも生き生きと生きられる、本国であり故郷でありました。しかし、故郷を見失つて「青信号オレが行くまで変わるなよ」というような世界の実現を夢見ているわれわれを、根こそぎ目覚めさせて本国に帰らすことは、大地を割るような大仕事であります。それで、法蔵菩薩は、五劫という想像を絶するような、とてつもなく長い時間（一劫は、四十里立方の石を、三年に二度、天女が降りて羽衣で石をなで、その石が無くなるまでの時間。五劫はその五倍）をかけて、思惟（思案）を尽くされ四十八願を建立されました。

親鸞聖人は、いつも「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり」（『歎異抄』）と御述懐しておられたといわれます。そして法蔵菩薩が五劫も思惟されたのは、「されば、そくばくの業」をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ（『歎異抄』）と、「そくばく」というたくさんの業、つまり人

類始まつて以来の業を背負つてわれわれの身があるからであるといわれます。たくさんの業をもつ身のわれわれは、どれほど知恵を絞り努力を積み重ねてみても、「欲もおおく、い



かり、はらだち、そねみ、ねたむころおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」（『念多念文意』）と、わが身一つ制御することもできません。法蔵

菩薩の五劫思惟は、このへど口のような業の堆積を見抜いた上で、そのまます実りのある人生として、まるごと救わん（摂受）とする御苦勞であつたと「本願のかたじけなさ」をいただく

れます。

松井憲一

しょうしんげ 正信偈の話⑤
ごこうしゆいししょうじゆ じゅうせいみょうしょうもんじっぽう
「五劫思惟之摂受。重誓名声聞十方。」
ごとう しゆい しょうじゆ みょうしょうじっぽう
(五劫、これを思惟して摂受す。 重ねて誓うらくは、名声十方に聞こえんと。)

そして、その「本願のかたじけなさ」を、法蔵菩薩のさらなる誓い、重ねての三つの誓いに見出されます。その第一は、世に超えた誓いである四十八願が完成しなければ、仏になりません。第二は、苦しみ悩む人々が永久に救われなければ、仏になりません。第三は、阿彌陀仏の名がすべての人々に響き渡り聞

こえるようにならなければ、仏にはなりません、という誓いです。

親鸞聖人は、この三番目の誓いこそが、「さるべき業縁（ごうえん）のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」（『歎異

抄』）という人間が、業縁を戴いて明るく生きぬくただひとつの道と頷かれて、「重ねて誓うらくは、名声十方に聞こえんと」と讃嘆されました。「名声」は、「名号」のことですが、名号は口という固有名詞ではなく、「南無阿彌陀仏」と阿彌陀仏に帰依（なんむあみだぶつ）する応答です。だから、名声は「南無阿彌陀仏」と、人間の想定にピリオドをうたせて、法蔵菩薩の願いに生きさせたいというメッセージです。

法蔵菩薩は、南無阿彌陀仏とまでなつて、念々に夢から覚めよと呼び続けていたのです。それで、法然上人は、お念仏は本願が選んだ行であるから、勝れていても易しく誰でもできるといわれます。その教えをうけた親鸞聖人は、五劫思惟の本願を憶念しなければ助からない身として「ただ念仏」されました。だから、お念仏は、数や声に力を入れるのではなく、南無阿彌陀仏と名のりです。聞こえてきた「本願のかたじけなさ」に、もったいないと出遇い続けていく道であります。

「山門の言葉」

必ず

生かされていく

道がある

すなわち

人生に絶望なし

中村久子

「人の命とはつくづく不思議なもの。確かなことは自分で生きているのではない。生かされているのだと言うことです。どんなところにも必ず生かされていく道がある。すなわち人生に絶望なし。いかなる人生にも決して絶望はないのだ」

これは中村久子さんの言葉です。

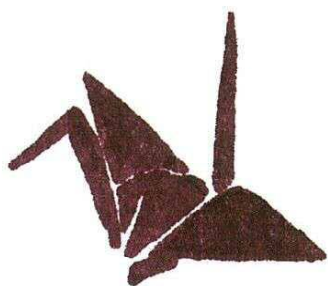
明治三十年岐阜県高山市で生まれ、二歳の時に凍傷に罹り、三歳の時にこの凍傷が元で突発性脱疽となり、両手両足を失い、波瀾の人生が始まります。

「そのお言葉はまさに干天に慈雨でした。長い間土の中にうずめられていた一粒の小さい種子がようやく地上にそとと出始めた思いがしました。そして幼い日に抱かれながら聞いた祖母の念仏の声が心の底にはつきりと聞こえたのです。そっだ、お念仏をさせて頂きます。そして、阿弥陀さまにす

べてお任せ申し上げよう。ようやく真実の道が細いながら見いだせた思いがいたしました」

三島多聞師は「彼女はたまたま

「南無阿弥陀仏」に出遇ったわけではないのです。彼女の心に起きた心が「私は人間なんだ。人間になりたい。人間になろう」という、そのこと自体が『歎異抄』に出遇わせ、念仏に出遇わせる原点となつていった」と語ります。



もう少し、中村久子さんの言葉を紹介いたします。

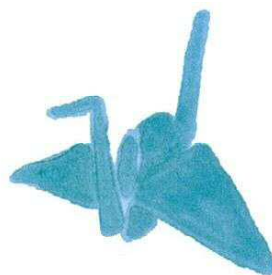
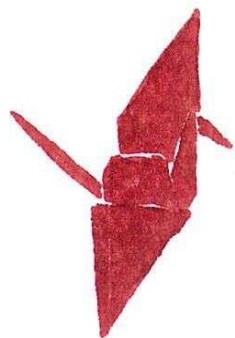
「さきの世に いかなる罪を犯せしや 拝む手のなき 我は悲しき」

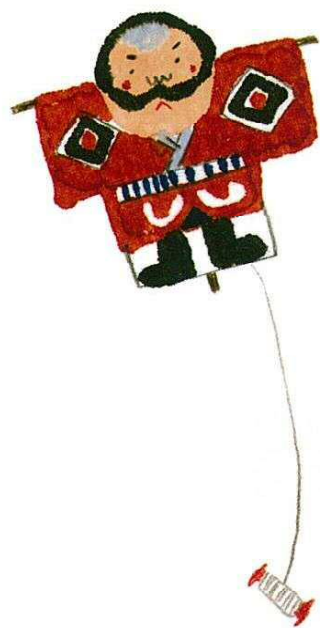
「手はなくも 足はなくとも 仏の 慈悲にくるまる 身は安きかな」

「良き師、良き友に導かれ、かけがえのない人生を送らせて頂きました。今思えば、私にとって一番の良き師、良き友は両手、両足のないこの体でした」

「手足なき 身にしあれども 生かさるる 今のいのちは 尊かりけり」

(岸本 秀一 記)





日誌

- 11月20日 城北ブロック会聞法会
(大塚 大和田 参加者 21 名)
- 11月22日 教行信証『信巻』に聞く(第 73 回)
講師 宗 正元師
- 11月26日 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 大橋 伊知郎
- 11月27日 ヒナタカコ コンサート
御祥当報恩講 通夜布教出勤 大橋・高橋
- 11月27日・28日 宗祖忌
- 11月28日 御祥当報恩講 出勤 木村主任・大橋・高橋
- 11月30日 婦人会食事会(上野・韻松亭)
- 12月3日 混声合唱団「エコー」練習
- 12月7日・8日 中興忌

えこお志お礼

- 大阪市 光明寺 吉田 譲 様
- 滋賀県 阿弥陀寺 藤原 公章 様
- 新潟市 佛興寺 河合 徳壽 様
- 世田谷区 阿部 雅榮 様
- 川崎市 竹内 司郎 様
- 中野区 阿部 典子 様
- 船橋市 藤井 美津江 様

掲示板

平成24年 1月

- 元日(日)午前6時 修正会
- 7日(土)午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 8日(日)午前11時 婦人会新年会
- 13日(金)午後1時半 教行信証『信巻』に聞く(第 75 回)
講師 宗 正元師

- 14日(土)午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
- 17日(火)午後7時 仏教青年会『歎異抄』に聞く
講師 宗 正元師
- 21日(土)午後1時半 定例聞法会
- 22日(日)午後3時 評議員会新年会
- 28日(土)午後5時半 同行会新年会



平成24年 西徳寺のあゆみ

1月



元旦(日)修正会

8日(日)婦人会新年会

13日(金)教行信証『信巻』に聞く

17日(火)仏教青年会

21日(土)定例聞法会

22日(日)評議員会新年会

28日(土)同行会新

2月



5日(日)城東ブロック会聞法会

8日(水)婦人会聞法会

3月



10日(金)教行信証『信巻』に聞く

18日(土)定例聞法会

21日(火)仏教青年会座談会

25日(土)同行会

26日(日)城南ブロック会聞法会

3日(土)評議員会定例役員会

4日(日)城北ブロック会聞法会

6日(火)仏教青年会レクレーション

7日(水)婦人会聞法会

10日(土)同行会

14日(水)教行信証『信巻』に聞く

17日(土)・23日(金)春季彼岸会

22日(木)聖徳太子奉讃会・

本山特派布教・春季永代経法要

24日(土)同行会修習式

4月



1日(日)中央ブロック会聞法会

14日(土)同行会

17日(火)仏教青年会総会

5月



18日(水)婦人会総会

21日(土)定例聞法会

28日(土)・29日(日)

親鸞聖人750回大遠忌法要

12日(土)同行会

16日(水)婦人会聞法会

19日(土)定例聞法会

20日(日)城西ブロック会総会

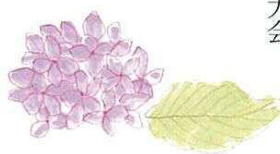
22日(火)仏教青年会

26日(土)同行会

27日(日)城南ブロック会総会

30日(水)勝友会布教大会

6月



1日(金)評議員会定例役員会

2日(土)・3日(日)

仏教青年会研修旅行

9日(土)同行会

10日(日)城東ブロック会総会

13日(水)婦人会聞法会

7月



16日(土)定例聞法会

17日(日)城北ブロック会総会

23日(土)同行会

24日(日)評議員会総会

4日(水)婦人会聞法会

7日(土)同行会

13日(金)・16日(月)

孟蘭盆会(10日よりお盆のお参りに伺います)

24日(火)

仏教青年会夏季ミーティング

8月



13日(月)・16日(木)孟蘭盆会

26日(日)

青年会主催バーベキュー大会

9月

1日(土) 評議員会定例役員会
 4日(火) 仏教青年会
 8日(土) 同行会
 12日(水) 婦人会聞法会
 15日(土) 定例聞法会
 19日(水)・25日(火) 秋季彼岸会
 21日(金) 秋季永代経法要



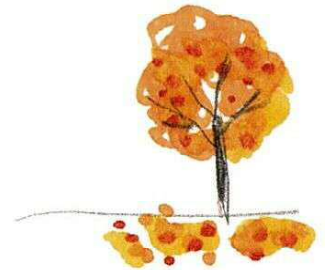
10月

7日(日) 中央ブロック会総会
 13日(土) 同行会
 20日(土) 定例聞法会
 21日(日) 城東ブロック会聞法会
 23日(火) 仏教青年会座談会
 24日(水) 婦人会聞法会
 27日(土) 同行会
 28日(日) 城南ブロック会聞法会



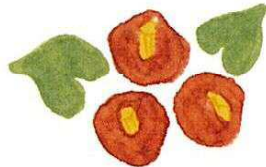
11月

3日(土)・4日(日) 西徳寺報恩講
 7日(水)・8日(木) 婦人会一泊旅行
 10日(土) 同行会
 11日(日) 城西ブロック会聞法会
 17日(土) 定例聞法会
 18日(日) 城北ブロック会聞法会
 20日(火) 仏教青年会報恩講
 24日(土) 同行会



12月

8日(土) 同行会
 12日(水) 婦人会聞法会
 15日(土) 定例聞法会・
 評議員会定例役員会
 31日(月) 歳暮法要



大遠忌ニュース②

親鸞聖人の750回忌法要は、聖人が領かれた教え、聖人そのものをかたどった本願念仏の教えを、共に確認していく法要であります。

大谷宗務総長は「宇宙飛行士・山崎直子さんは、地球は想像以上に素晴らしく美しかったと語りましたが、離れて観るのではなく、そこに住んでいるときには、地球環境はまさに五濁そのものであります。特に仏教界にあっては、葬式はしない、墓はいらない、加えて高齢化、少子化、地方での過疎化という状況の真っ只中において、教団の今後果たすべき使命とは何か、この大きな課題を抱えて、大遠忌法要をお迎えしようとしているのであります。」と話されました。

この法要を通して、生まれてきたこと、生きること、死にゆくことの意味を、それぞれにおいて少しでも明確になればと考えます。

〔帰敬式の申し込み〕

大遠忌法要中(4月28日)に行われる「帰敬式」の申し込み受付は、『えこお』2月号にてご案内いたします。詳細については誌面にてご確認ください。

平成24年 西徳寺 親鸞聖人750回大遠忌法要 日程表

時間	4月28日(土)	時間	4月29日(日)
10:00	日中法要 舌々正信偈・三首引	10:00	日中法要 仏説阿弥陀経・一首引
11:00	法話 大谷大学・教授 いちらく まこと 一楽 真 師	11:00	法話 大阪別院・輪番 なかい けんりゅう 中井 賢隆 師
12:00	昼食 休憩	12:00	昼食 休憩
12:45	帰敬式	13:00	逮夜法要 行譜正信偈・三首引
13:30	逮夜法要 常行三昧	14:00	特別講演 清水寺貫主 もり せいはん 森 清範 猊下
14:30	法話 大阪別院・輪番 なかい けんりゅう 中井 賢隆 師	15:00	寄席 落語 さんゆうてい えんか 三遊亭 圓歌 師匠
15:30	西徳寺 混声合唱団 『エコー』		
19:00	青年会主催イベント ライブコンサート 出演『ヒナタカコ』		※予定を変更する場合がございます。

編集後記

昨年、本山の大遠忌法要に参拝した折、有縁の方々が全国各地から参詣されておりました。共にお念仏のよびかけによって賜るつながりをあらためて感じさせられました。

私たちが称える南無阿弥陀仏には、曠劫以来、阿弥陀仏の本願を生きてきた人々の歴史があります。自我の心で生きることの空しさを教え、この身を支えてくださる世界(はたらき)に目覚めていくことが願われている本願念仏の道。これこそが九十年の生涯をかけてあきらかにされた親鸞聖人のみ教えであります。

今年は西徳寺において親鸞聖人の750回大遠忌法要が勤まります。皆様と共に親鸞聖人のご恩に応える法要にしたいと願っております。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：<http://saitokuji.tobihiro.jp/>